

2012年度 清教学園中・高等学校〈学校関係者評価〉報告

清教学園学校関係者評価委員会

これは、清教学園中・高等学校〈学校評価委員会〉から提出された「2012年度清教学園学校評価報告書」（自己評価）にもとづいて、当委員会（学園評議員によって構成される）が、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告するものである。

☆評価内容に関して

全般的には良い評価を得ている項目が多いものの、学園に誇りを感じている生徒の割合が予想よりも低かった点は気にかかる。入学を勧めないという傾向が以前より出てきている点も同様に懸念されるところであり、原因をきちんと捉えることが必要である。人間においては、自分のいる場所での充実感というものが大切であり、その意味でも本件は重要な課題として認識しておくべきだと思われる。また、生徒と教員との間で評価に乖離が生じているものについても、さらなる実態の把握に努めてほしい。私学の良さの1つは、卒業後も学校に来れば恩師である教員が引き続き活躍しているということにある。その私学の良さを生かすためにも、在校時における乖離の事態は望ましくない。人間的な関わり方の密度の向上等、学園の歴史において積み上げられてきた良さを見直す機会であるとも言えよう。

そのほか、充実化が進む図書館教育については、さらなる質的向上を図るべく、共時的にも通時的にも広い視野を持った図書選定委員のようなものを立ち上げてみるのもよい。学園の教育財産をより良い方向にもたらすアイデアや工夫をさらに求めたいところである。

☆評価結果の公表の仕方等に関して

学校評価の公表については、今回で5年度目を終えるところであり、各種の評価データが蓄積されてきている。その意味では、各事項の改善経過が分かるような視覚効果のある公表の仕方検討すべきである。また、公表においては良い点も悪い点も発信し、外部の方へのアピールにした方がよいのではないか。いまの時代は透明性が重要視されており、そうした状況への配慮も必要であろう。その意味では、ウェブについても、人間の手になるものであるという風合いが感じられる要素がもっとあってもよいのではないか。いずれにせよ、学校評価の結果公表をはじめ、学園からの発信内容については、時代の流れを意識しつつ常に見直していくのが望ましい。

以上